

50 岡山先生を吊する辞（東京専門学校校友会総代・東京組

合弁護士有志総代）

〔『法学新報』第三九号 明治二十七年六月二十八日〕

○岡山先生ヲ吊スル辞

博聞卓識ノ人世上或ハ之有ラム然レト躬行実践能ク其所信ヲ断
行スルノ士ニ至テハ蓋シ稀ナリ「俊才機敏人世上或ハ多カラム
然レトモ真摯切実能ク其徳望ヲ担フノ士ニ至ラハ蓋シ鮮」シ嗚
呼是古今同轍而シテ独リ我カ兼吉君岡山先生ニ於テ之ヲ兼ルヲ
見ル其盛名ヲ当代ニ馳ス寔ニ所以アルナリ

先生資生温厚之ニ加フルニ敏活ノ才ヲ以テシ精勵刻苦夙ニ大学

ヲ卒へ猛然蹶起シテ學術ノ独立ヲ叫破シ同志士ト共ニ東京専門
学校ヲ創設シ経営慘憺頗ル昂ムル所アリ今ヤ専門学校ハ先生等
創業ノ典摸ヲ拡張シ日ニ隆昌ノ運ヲ致シテ優ニ今代ノ教育社会
ニ一頭地ヲ抜クニ至リタルモ其創始ニ当テハ民間在立ノ業務特
ニ艱苦ヲ極メ加フルニ蜚語紛々トシテ之ヲ遮リ誣説擾々トシテ
之ヲ妨ケ今ニ於テ殆ント夢想スヘカラサルノ憂患ニ遭遇セリ而
シテ先生等主トシテ能ク難衝ニ当リ諄々口ニ説論スル所ハ慎重
之ヲ其躬ニ実行シ幾多ノ暗雲朦霧ヲ排除シテ遂ニ創設ノ目的ヲ
シテ耀々天廷ヲ仰キ白日ヲ見ルノ觀アルニ至ラシメタリ然リ而
シテ先生ノ我邦學術ノ為ニ尽瘁セルモノハ敢テ之ニ止ラス或ハ
東京法学院ノ創設者トシテ帝国大学ノ教授トシテ其他尚ホ商業
学校ニ若クハ專修学校ノ積年蘊蓄ノ蔵ヲ発シテ幾多ノ子弟ヲ薰
陶之偉績赫々殆ント枚挙ニ暇アラス嗚呼吾人、先生ノ偉業ニ師
恩ノ沢ニ浴スル者常ニ其鴻恩ヲ感謝スルト今時ニ我日本国民ト
共ハ學術社会ノ恩師トシテ永ク其徳ヲ頌セスシテ可ナラムヤ
如斯ク學術界ニ立テ偉勲ナル岡山先生ハ当代ノ弁護士トシテ特
ニ老練着実ノ雷名高ク最モ學理ト事實ノ適合ニ巧妙ニ能ク至難
ノ詞訟ヲ処理シテ範ヲ当来ニ示シ起テ政事ヲ論スル不偏不党深
ク官民ノ繫肯ヲ穿チ静ニ經濟ヲ策スレハ精功緻密備サニ其要ヲ
悉シ朋友ニ接シテハ信誼義俠其比ナク後進ヲ勵マシテハ誘掖提
助至ラサルナク己レヲ持スル勤儉ニシテ温厚懇口ニ人ニ交リ高
節德行実ニ一代ノ師範タリ
嗟乎天カ將タ命カ此先生ニシテ遂ニ天寿斯ノ各種ノ美德ヲ齎ラ
シテ溘焉トシテ中道ニ長逝ス悲悼何物カ之ニ加ヘム極前嘘唏其

言フ所ヲ知ラサルナリ唯希クハ先生ノ英靈長ヘニ天国ニ樂眠シ
テ真理ト公道ノ加護ヲ垂レヨ維時明治廿七年六月十七日東京專
門学校々友会総代黒川九馬謹テ蘋蘩ノ奠ヲ以テ岡山先生ノ靈ヲ
祭ル嗚呼哀哉尚饗

東京専門学校々友会総代 黒川九馬

嗟乎岡山兼吉君逝ケリ天ノ厲ニシテ命ノ非ナル何ソ其レ此ノ如
クナルヤ小人多クハ長寿君子却テ短命千古常ニ憾ヲ同フス頃年
天頻ニ法學ノ先進者ヲ奪ヒ今又我岡山君ニ及フ天果シテ君子ニ
災スル乎將タ之ヲ嫉ム乎抑亦之ヲ惜ム乎天蒼茫命玄幽吾輩其是
非ヲ知ルコトヲ得ス嗟乎痛哉

封建制ヲ成ス數百年人皆祿仕ヲ貴フ明治政ヲ新ニスルモ因襲ノ
久キ尚ホ此会ヲ去ルコト能ハス少年學志七ハ則青雲ヲ思ヒ學
生業ヲ卒レハ則官仕ヲ希フ皆謂ラク天下ノ功業朝ニ仕フルニ非
レハ成ス能ハスト君業成リテ大學ヲ出ツルニ及ヒ衆咸君ヲ薦メ
テ官ニ居ラシメント欲ス君獨之ヲ峻拒シテ代言人ト為レリ後數
年曩ノ青雲ニ志シ貴仕ヲ羨ミシ者ニシテ代言人ト為ル者幾人ナ
ルヲ知ラス嗚呼是以テ君ノ識見卓拔ナルヲ見ル可シ

代言人ノ職元濟民利世ヲ以テ旨ト為ス然ルニ其心貧汚黠猾其行
殘忍輕浮唯己ノ私慾ヲ逞フシテ他ノ利害ヲ念ハサル者往々ニシ
テ是レ在リ君資性篤實操行正直人ニ接スル懇篤己ヲ持スル謙讓
自ラ術ヲ売ランコトヲ求メスト雖モ來リテ事ヲ託スル者門前
市ヲ為ス是ニ於テ乎黠猾輕浮ノ徒漸ク跡ヲ歛メ代言人ノ風稍々
弊ヲ矯ム今日世人ヲシテ弁護士ノ卑ム可ラサルヲ知ラシメタル
モノ君實ニ与リテ力アリ

吾輩君ノ風ヲ聞テ奮起シ君ノ行ヲ見テ警省スルヲ得タリ而シテ
今ヤ則チ斯人ナシ嗟乎悲哉然リト雖モ君ノ遺徳世ニ存シテ永ク
謬ラレス後進者豈私淑スル所ナカランヤ益々其言行ヲ正実ニシ
テ愈々其地位ヲ高尚ニシ弁護士ヲシテ上司法ノ機関タルニ愧チ
ス下万民ノ儀表タルヲ得セシメハ君死スト雖モ猶ホ生ケルカコ
トケン君瞑スル耶君瞑セサル耶君知ル耶君知ラサル耶人鬼処ヲ
異ニシテ幽現路遙カナリ嗟乎悲哉尚クハ君ノ靈髣髴トシテ来享
セヨ

東京組合弁護士有志惣代 飯田宏作